農村地域における個人・世帯・イエの役割分担とその継承方法に関する研究

THE SHARE OF ROLES AND THE WAY OF SUCCESSION TO THEM
FROM THE VIEWPOINT OF INDIVIDUAL, A COUPLE,
A HOUSEHOLD IN A RURAL AREA

藍澤 宏*, 鈴木 麻衣子**, 斎尾 直子***

Hiroshi AIZAWA, Maiko SUZUKI and Naoko SAIO

This study researches extended families as the main object and suggests the condition of succeeding to the household and community and the condition of securing one's identity.

The first we grasp the situation of self-government in a rural area and the share of roles in a household from the viewpoint of individual, a couple, a household and a community, the second we show the significance of social system and the prospect of society.

For the progress of society in a rural area, it is necessary to educate the successor and to secure one's identity in a household and social system.

Key words : community, extended family, a couple, individual, share of roles, succession to the roles,
地域社会, 拡大家族, 世帯, 個人, 役割分担, 役割継承,

1. 研究の背景と目的

従来の農村での暮らしには、生産活動を効率的に進める上での相互扶助が行われ、それを基盤として暮らしを維持していく生活互助が成立し、一集団として共生していくための役割や人間関係が存在してきた。それら生産・生活互助は、地域社会を維持し、継承していくための社会のしくみとして受け継がれ、それによって道路等の生活環境の管理、集落自治や伝統行事が行われてきた。地域の社会活動には主にイエを単位として参画し、イエ同士の連帯が重視された。しかし、近年は農業経営の多様化により生産互助の関係は崩れ、また少子高齢化に加えて若者の流出が進み、農業の存続のみならず、これまで生活互助としてイエが果たしてきた役割が次世代へ継承されず、地域運営の形骸化、地縁関係の希薄化等が生じている。これにより、イエを基盤とした地域社会そのものの存続が危ぶまれ、既存の地域社会のしくみが社会変化に対応しきれていない状況にある。

一方、新たな暮らしとして、イエを単位とした地域運営に世帯を単位とした社会参画がみられ始め、また生涯学習等の個人を対象とした活動支援も図られ、個人及び世帯がイエの枠を超え主体性を持って参加できる場と機会が展開しつつある。しかしながら、依然として各人の参加形態は、イエの代表・仕事といったイエを基盤とした役割に囚われ、特に農村女性には日常の農作業、家事、子育てと

いった時間的制約や親・子世帯間の立場による制約がみられ、個人・世帯としての活動参加を支援していく体制には十分に至っていない。

このように、イエを単位とした従来型の農村社会のしくみが変容する一方、個人の関心の多様化が進む現状において、今後地域社会を維持・継承していくためには、従来のしくみを現代に適応させると共に、世帯並びに個人を主体とした社会参画を推進することが重要となる。既往研究としては、主に社会学分野において、個人、イエ、社会集団の各視点から捉えた地域社会における生活・行動様式が解明され、建築学分野においては生活・経済の両側面から生活環境整備に関する今後の計画課題が提示されているが、イエを構成する世帯に着目した生活・行動様式の検証、また各視点の連関とその総体に言及した地域社会形成の方向性を示す研究は例が^{*参考文献}少ない。

本研究では、個人・世帯・イエ・地域社会における役割内容と分担・継承の方法、及び各人の主体性を把握し、地域社会のしくみの要素として、イエ・地域社会を維持・継承し得る条件、及び各人の主体性を確保し得る条件を明らかにすることを目的とする。

2. 研究の方法

本稿では、イエ・地域社会における役割分担とその継承の方法を「しくみ」として捉え、【地域社会を運営していくしくみ】、及び地域社会の構成単位であるイエに関する【地域社会を支えるイエ内部

* 東京工業大学文教施設研究開発センター 教授・工博

** 東京工業大学大学院 大学院生・修士(工学)

*** 東京工業大学文教施設研究開発センター
助手・博士(工学)

Prof., Research and Development Center for Educational Facilities, Tokyo Institute of Technology, Dr. Eng.

Graduate Student, Tokyo Institute of Technology, M. Eng.

Research Assoc., Research and Development Center for Educational Facilities, Tokyo Institute of Technology, Dr. Eng.

個人を1サンプルとして、参加している活動の組み合わせから個人を数量化Ⅲ類分析で得点値化し、各人の得点値をクラスター分析ウォード法により、個人をA1～A7の7つに分類した(図3,4,5)。Ⅰ軸は+側に子供会、青年会、PTA、-側には老人会が付置する年齢軸、またⅡ軸は+側に主に男性参加の活動、-側には女性による活動が付置する性別軸として捉えられ、Ⅰ-Ⅱ軸より性別・年代の2つの属性に規定された活動参加形態があることが求められた。またⅢ軸は、-側に地域運営を目的とした地域組織分野の活動が偏り、+側に青年会、消防団等の個人としての参加がみられる活動が捉えられる。これにより、Ⅰ-Ⅲ軸からは世代間による活動内容の相違が得られ、経験則として1)役割遂行型と2)余暇充実型の2つの構成軸が求められた。

男性の場合、活動参加形態は年代に応じて細かく設定されるが、女性の場合、婦人活動を中心としたA1が主に広がる(図6)。立場別では、男性の子世帯が地縁に関係するA2、A3、もしくは社縁活動中心のA5がみられ、親世帯になると地域運営を担っているA2と老人会の参加がみられるA4、A6になる。また女性の子世帯は婦人組織中心のA1にほぼ偏り、親世帯になるとA1に加えて老人会・趣味活動へ参加するA4、A7がみられる。地域運営中心のA2については、50・60代を中心とし、男性だけではなく新たな傾向として女性もA2に属する人が認められた。また地域別に親・子世帯間の特徴をみると、都市近郊Aの子世帯男性はA5が多くみられ社縁関係が強く、女性は婦人活動中心のA1を主とし、地域運営に直接関わることは少ない。また地域運営中心のA2に属する人は、親子世帯の男性どちらにもみられる。離島Bは全体として地縁による活動

に偏っている。地域運営中心のA2は主に子世帯の男女で構成され、親世帯になるとほぼA4の老人会への参加になり、地域社会の担い手は子世帯中心となっている。中山間Cも、全体として地縁による活動への参加が多くみられるが、男性の子世帯はA2、A3が主にみられ、親世帯は地域運営中心のA2に多く属している。女性は親・子世帯共に婦人活動中心のA1に属しており、特に子世帯にはA2に属する人もややみられ、活動の取り組みに積極的な層と捉えられる。

このように、地域社会への関わり方は性別・年代に規定され、地域社会運営の担い手は50代前後の層となるしくみが明らかとなった。また地域運営の担い手層は、特に親・子世帯のどちらがイエの代表となるかについて、地域固有のしくみが存在することが求められた。依然として地域運営は男性による傾向があるが、女性50代の参加がみられたことは、新たな役割分担の方法として捉えられる。

4. 地域社会を支えるイエ内部のしくみ

1) 日常生活における役割分担の方法

【地域社会を支えるイエ内部のしくみ】について典型的な家族の1)日常生活における役割分担の方法を捉える。まず、有意抽出による典型家族のヒアリング調査から得られた各地域の日常生活の過ごし方について、概要とその特徴を示す(図7)。

都市近郊Aの拡大家族の住まい方は、主に《親子完全同居型》である。イエの代表はあくまで男性中心であり、親・子世帯の男女ともに農作業にたずさわるイエが多く、親子・夫婦間の依存関係がみられる。総じて、普段の行動圏域は職業を通じた集落内での活動を中心とし、家業中心の生活となる傾向にある。離島Bの住まい方には《同一敷地内別棟型》がみられ、そこでは親は隠居し、子世帯が

図3 活動参加状況に関する個人の固有ベクトルとカテゴリープロット図

図4 活動参加状況に関する個人類型の内訳

図5 活動参加状況に関する個人のサンプルプロットと類型図

図6 個人類型の属性別割合

イエのすべての役割を任せられ、親子世帯が互いに独立した夫婦単位の生活を送る。地域での活動は、組織に参加するというよりも、近隣の友人と自主的な集まりを持っており、立地条件もあいまって、主に地縁を基盤とした生活となる。中山間Cの拡大家族の住まい方は、主に《親子完全同居型》である。親世帯の多くは農業経営から身を引き、子世帯が担っている。また、女性も男性と対等に経営にたずさわったり、地域運営に関わっていたりと積極的に参加している人がみられ、そのようなイエでは家事・子育てに関して嫁と姑が分担・協力をしている場合が多い。イエでの役割を、夫婦単位で行うことと親子協力で行うことを明確に区分し、親子世帯は一つのイエに住みながらも、互いの距離を保っている。立地上、普段の行動圏域は町内を主としているが、趣味活動への参加も活発であり、幅広い活動参加がみられる。

以上のことを踏まえて、次に集落外での生活内容について、イエ・地域社会での個人の役割と役割以外の楽しみとしての活動を6項目に設定し、個人を単位として行動圏域を踏まえた生活内容に関する特徴を明らかにする(図8)。

性別にみると、個人の楽しみに関しては男女を問わずみられるが、男性は、仕事、地縁組織参加等のイエ外での活動を主とし、女性は家事、家族の楽しみ、里帰り等の血縁を中心とした生活を送る傾向にある。また立場別では、男性の子世帯は仕事中心の生活、親世帯は地縁組織への会合がそれに加わる。一方女性の子世帯は、女性としてみられた特徴と変わらないが、親世帯になると個人の楽しみが増加している。年代別では加齢にともない、10・20代では個人的な楽しみ、30代頃から仕事や家族、地域運営へと変化し、60代以降

は家族や個人での楽しみに収束する。地域別では、都市近郊Aでは家事、個人の遊び、社縁組織会合を中心として、地縁に関係しない活動が多い。男性は仕事を中心とした生活、女性の親世帯は個人の趣味を楽しんでいるが、女性の子世帯は家事というイエ内の役割に追われ、外出は家族と出かける程度にとどまっている。離島Bでは他地域と比べて全体的に集落外に出かけることそのものが少ない。また中山間Cでは、都市近郊Aと類似した内容であるが、地縁組織への会合にも多く参加している傾向がある。男女とも積極的に多種多様な組織に参加している人が多い。

各人のイエ内における生活には、主に立場に応じた役割分担が存在している。しかし、役割分担の仕方によっては、立場に規定されない新たな活動への取り組みが可能になっていることが明らかとなった。C地域にみられるように、互いの役割を明確に分担し、かつ協力し合い、各人の主体性を確保するといった一つのしくみは、地域社会の活動を促進する基盤となっていることが認められた。

ii) 役割継承の方法

a) 世帯単位にみた地域運営の役割分担状況

【地域社会を支えるイエ内部のしくみ】のii) 役割継承の方法について、まず世帯別にみた活動参加状況を捉えることにより、夫婦及び世帯間の地域運営に関する役割分担状況と特徴を明らかにする。1世帯を1サンプルとして、男性の参加している活動内容6分野と、その妻6分野の計12指標を設定し、世帯を数値化Ⅲ類で得点値化し、各世帯の得点値をクラスター分析ウォード法によりB1~B6の6類型に分類した(図9,10,11)。I軸は、+側に男女の生産組織、-側には男女の世代別組織が付置し、地縁を前提とした集団であるか否か

地域	都市近郊A	離島B	中山間C
住まい方と世帯間の関係	親子完全同居型 親世帯 子世帯 燃のつながり	同級地内別居型 親世帯 子世帯 互いに独立 母屋 子世帯	親子完全同居型 親世帯 子世帯 互いに分担
生活	親子夫婦共同	夫婦単位	親子分担・協力
経営管理	男性の親・子世帯	子世帯男性中心	子世帯夫婦で協力
設計管理	姑	世帯ごとに女性が担う	嫁
作業	親子夫婦共同	子世帯夫婦	子世帯夫婦
設計	嫁姑一掃又は別	世帯ごとに女性が担う	嫁姑分担
育児	主に嫁	嫁	嫁姑分担
地域組織参加	男性	子世帯の男性	親世帯の男性
協能組織の参加	親・子世帯	子世帯	子世帯
親子、嫁姑関係	依存関係	親・子世帯共に自立	親子の明暗な役割分担
女性の立場	Ⅱ方	Ⅱ方	男女対等
人間関係	社縁中心	地縁中心	地縁・社縁双方
世帯継承方法	連続的	一括	段階別

図7 日常生活の概要・地域別(各地域のヒアリング調査より)

図8 集落外での生活内容・属性別

図9 活動参加状況に関する世帯の固有ベクトルとカテゴリープロット図

図10 活動参加状況に関する世帯類型の内訳

に分かれる。Ⅱ軸は+側に女性の地域組織、-側に男性の世代別組織等が付置し、世帯として地域運営に参画しているかが捉えられる。またⅢ軸では、+側に教育、-側に個人の楽しみである余暇及び女性の農協組織等が付置する。男性の地域組織を要として、生産組織、農協組織、余暇が付随していることが求められる。世帯類型の内訳としては、夫婦間で活動の質が同様であるのはタイプ B1,B2,B4、違いがみられるのはタイプ B3,B5,B6 である。前者の B4 は夫婦ともに地域運営に参画する新たな参加形態と捉えられる。また、後者で夫婦共に多様な活動参加をしているのは、地域運営を活動の中心とした B3、及び教育活動にも参加している B5 である。

世帯別の特徴として、子世帯は主に社縁活動中心の B2、もしくは地縁に関係した活動と教育活動にも参加している B5 が多くみられる(図 12)。また親世帯は地縁集団に拠っている B1、もしくは地域運営中心の B3 で主に構成されている。年代別の特徴としては、男性側の年齢を世帯年齢としてみると 40 代から B3 が増しており、地域運営への参加について 50 代ではその中心、60 代になるとその他の地縁による活動が多くなっている。また、教育活動への参加がみられる B5 は若い世代、B3 は 50・60 代で専ら構成されている。地域別に親子世帯間の特徴でみると、都市近郊 A は、子世帯は職能集団の B2 に多く属している。親世帯は様々な類型がみられ、現在でも地域運営に関わっている B3、もしくは引退している B1、B6 の両者が存在する。また核家族になると B2 の職能集団に偏るか、B6 の活動数が少なくなる傾向がみられる。離島 B は、親子世帯共に地縁による活動が多いが、特に親世帯の多くが隠居型の B1 に属している。また、核家族については、男女とも地域運営に参画する B4 が多くみられ、

女性も地域社会において重要な役割を担っている。中山間 C は、親世帯が地域運営中心の B3 に、子世帯は教育活動への参加もみられる B5 というように、世帯間において中心となる活動内容は異なるものの、親子世帯ともに幅広い活動参加がみられる。

このように、活動参加状況は夫婦間・親子間における特徴がみられ、地域運営の担い手層に関して立場に規定された地域固有のしくみがあることが示された。依然として地域運営は男性中心であることが多いが、女性にも離島 B の核家族や中山間 C の拡大家族にみられたことは、新たな役割分担の方法と捉えられる。

b) イエ単位にみた役割継承の方法

まず、ヒアリング調査から得られた各地域の役割継承の方法について概要と特徴を示す(図 13)。親世帯から子世帯への世帯主の権利の渡し方から、①親世帯主導の連続的な継承、②子世帯中心の一括継承、③親子分担による段階別の分割継承の 3 タイプが捉えられた。

①親世帯主導の連続的な継承は農村での一般的な形態であるが、調査事例の中では都市近郊 A でみられ、世帯継承は各家の事情に応じて、親世帯から子世帯へ各種権利が連続的に渡されるタイプである。よって、親世帯が子世帯をイエの代表として育成していく期間は自ずと長くなり、親子を中心とする縦のつながりを軸とした継承がなされるしくみとなる。②子世帯中心の一括継承は、特に離島 B の「世帯渡し」と呼ばれる地域独特の隠居制度にみられた。子世帯主の結婚後まもなく親世帯から各種権利を一度に渡され、同時に親は離れに移り、母屋を子世帯に譲るといった慣習がみられる。そこには、子世帯主をイエの代表として地域社会に送りだし、短期間のうちに一戸前に育て上げるしくみができている。③親子分担による段

図11 世帯のサンプルプロット及び類型図

図12 世帯類型の属性別割合

図13 役割継承の方法

階別の分割継承は農村での新しい役割継承の型である。調査事例の中では中山間Cでみられ、子世帯は若くして農業経営・家計管理を任せられ、数年後に世帯主・地域組織参加代表の権利が渡されるという段階別に継承されるタイプである。これは、イエ内の役割は子世帯中心、イエ外の地域運営は親世帯中心といった明確な役割分担がなされることになる。また女性も男性と対等に農業経営に参画している世帯がみられた。

次に地域社会におけるイエを単位とした活動参加状況を把握することにより、イエ内の世帯間における地域運営に関する役割分担状況とその特徴を明らかにし、地域別で捉えることにより、各地域で得られた役割継承の方法と照らし合わせて考察する。4章ii)a)における分析結果より図11としてプロットされた各世帯について、同拡大家族内の親世帯と子世帯との点を結び、イエとしての活動参加状況を線分で表す(図14)。

事例地の都市近郊Aは子世帯の多くが機能集団に偏っており、親世帯が地域運営を担う、もしくは世代別組織参加程度に止まるという大きく2つの傾向がみられる。役割継承の方法が①親世帯主導の連続的継承により、従来型のイエを単位とした社会参画になることから、個人・世帯の主体性が確保されにくい。主体的な活動参加はへの広がり少ない傾向にある。ただし、親子ともに主体的な活動参加をしているイエもみられ、新たな親子関係を捉えられる。離島Bは親・子世帯ともに地縁集団に偏っており、地域運営の主な担い手は子世帯となっている。これはイエ内部の役割の②一括継承により、子世帯が20・30代の世帯渡しをいまだ行っていないイエ、もしくは慣習のみられないイエと、世帯渡し後の親世帯が隠居し子

世帯が地域運営に参画しているイエとして捉えられた。個人の主体的な活動参加が少ないのは、子世帯が担うイエとしての役割の大きさにより、個人単位の活動に制限があると考えられる。また核家族の場合は、親世帯の年代に近くなっても地域運営の役割は引き続き果たしており、女性の参画もみられ、地域社会を支える一員として役割を担い続けている。中山間Cは特にⅡ軸に関して親・子世帯が対称に付置しているイエが多い。親世帯が地域運営の担い手、子世帯は教育活動を含めた積極的な活動参加がみられるイエは③分割継承の一段階目である親世帯が地域運営、子世帯が諸活動への主体的な参加がみられるイエと捉えられる。また親世帯が世代別組織程度の参加となり、子世帯が地域運営を主とした活動を行っているイエもみられ、離島Bで示された親子関係に同質である。これは③分割継承の二段階目である親世帯が高齢で隠居し、子世帯がイエの代表となっているイエと捉えられる。世帯間の明確な役割分担と過度な負担がかからない継承方法により、個人・世帯の主体性が確保された活動参加が図られていると考えられる。

このように、親子間、男女間の比較で捉えたイエ内における活動参加状況と役割継承の方法とを照らし合わせることで、地域に規定されたイエにおける継承方法が求められた。親世帯から子世帯への世帯主の権利の渡し方について、継承の時期・内容及び親子世帯間の関係から3つのタイプが得られ、地域社会におけるイエの代表としての役割が、しくみを基盤として年代や立場に応じて継承されることが求められた。中山間Cで多くみられた世帯間における明確な役割分担がなされた継承方法は、イエとしての役割を果たしながら、かつ個々人が地域社会における多種多様な活動に参加してお

図14 イエとしての活動参加状況・地域別

り、地域社会の活動の活性化及び社会の維持・継承を促すと考えられる。他方、地域に規定されず、親子ともに積極的な活動を行っているイエもみられ、新たな親子関係として捉えられる。

イエ内部の役割分担及び役割継承の方法から、個人、世帯、イエとの地域社会との関係が明らかとなった(図15)。世帯間に依存関係がみられ役割継承の方法が①連続的な場合、親世帯主導であることから(a)イエ中心の従来型の社会参画となり、個人・世帯の主体性は制限される。また、各世帯の主体性を確保した②一括的な役割継承は、(b)世帯中心の新たな社会参画の方法と捉えられるが、役割負担の度合によっては個人の主体性が制限され得る。さらに、新たな親子関係として③段階別の役割継承については、個人・世帯の明確な役割分担と協力関係により互いの主体性を確保し、かつ地域社会においてイエの役割を果たし、イエと地域社会双方の維持・継承を図っていることが求められた。

5. 地域社会に存在するしくみの意義と今後の地域社会形成

地域社会に存在するしくみを通じて得られた経験が、各人の価値観にどのような影響を与えているのかを把握する。

1) 地域社会において協力していく大切さを実感した時期と機会

第一に、地域社会において協力していく大切さ(以下、協調性)を実感した{時期}と{機会}を個人単位で把握し、地域社会のしくみの意義を示す。

まず協調性を実感した{時期}について、全体として[結婚]後が多く挙げられているが、[就職]前の若い世代から実感している人も少なくない(図16)。性別にみると、女性の方が概して[結婚]による環境変化が大きく、新たな社会に適應するためにも意識を高める重要な

時点となっている一方、男性は[結婚]後も同地域で暮らす場合が多いことから、[就職]前から自分の地域に対する関心を持ち得ていると捉えられる。立場別では、特に親子間の大きな差はみられない。年代別の特徴としても、20代までは、いまだ協調性の実感を得ていない人がみられるものの、30代以降は[結婚]を機に得ており、60代以降に[就職]前を挙げている人がやや増している程度である。地域別にみると、都市近郊Aは主に[結婚]を機に、中山間Cは[結婚]後に加えて[就職]前から得ている人もやや多く、離島Bにいたっては[結婚]と[就職]前から得ている人の割合が同程度に高くなっている。

次に協調性を実感した{機会}については、全体として地域のなんらかの会で[仕事]を請け負うこと、会の重要な役目である[役職]に就くことが多く挙げられており、主にそれら2つが地域社会との関わりを持つ重要な機会となっている(図17)。また性別に加えて立場別の特徴をみると、子世帯に比べて親世帯の男性は会に[代役]として参加したことを挙げており、[代役]という経験も重要な機会であったことが分かる。同様に親世帯の女性は[役職]経験も挙げており、加齢により女性であっても会のまとめ役になる機会がやや増すといえる。年代別では、30代は会の[一員]や[仕事]を請け負った機会を挙げているが、40代以降になると実際に[役職]経験も増えてくることから、それに対する評価が表れている。地域別にみると、都市近郊Aは、[仕事]や[役職]を同程度に挙げている。これは役割継承の特徴にみられるように、イエの代表としての責任を親世帯主に任せている一面もあることが、その実感をやや遅らせていると考えられる。離島Bは、会の[仕事]を請け負うことから協調性を得ている。地域独特の世帯渡しによって、若くからイエの代表としての責任感

図15 個人・世帯・イエと地域社会との関係に関する概念図

図16 協調性を学んだ{時期}

図17 協調性を学んだ{機会}

地域社会の一員として、次世代に対して期待する(内容)と(時期)

(時期)

凡例

1:就職前

2:就職～結婚

3:結婚～子の就職

4:子の就職～隠居

5:隠居後

-: 0～10%

*: 10～20%

△: 20～30%

○: 30～40%

◎: 40～50%

●: 50%～

《立場》

子世帯

女

男

女

親世帯

男

女

男

女

内容

時期

1

2

3

4

5

内容

時期

1

2

3

4

5

地域の人に顔を覚えてもらう

地域の人に顔を覚える

地域の人との付き合い方が分かる

地域人と協力する大切さを知る

親戚との付き合いを把握する

イエの仕事把握する

下の世代を指導していく

地域のしきたり・伝統を伝えていく

○△△*

△△△*

-△◎**

○

△△△*

△△△*

--*○△

--*△○

◎△△*

◎△△*

◎

○

◎△△*

△*◎**

-*◎△

-△◎◎

◎△△*

◎△△*

-△△*

◎

**◎△

△*◎**

-*◎△

-△◎◎

○△△-

◎△○-

○◎**

-*◎**

○△△-

◎△*

-*◎△

-△◎◎

《年代別》

～20代

30代

40代

内容

時期

1

2

3

4

5

内容

時期

1

2

3

4

5

地域の人に顔を覚えてもらう

地域の人に顔を覚える

地域の人との付き合い方が分かる

地域人と協力する大切さを知る

親戚との付き合いを把握する

イエの仕事把握する

下の世代を指導していく

地域のしきたり・伝統を伝えていく

○△△△*

○△○*

*◎**

**○△

*◎△

△△

--△*

*○○

◎○△△△

◎◎△△*

-△△△△

-*●◎△

**◎△

○△△△△

--*◎△

-○○

○△△**

△△△**

-△△**

◎

△△△*

△△△*

-*◎△

-△△◎

○△△*

◎△△*

◎△△*

◎△△*

◎△△*

◎△△*

◎△△*

◎△△*

《全体》

時期

1

2

3

4

5

内容

1

2

3

4

5

地域の人に顔を覚えてもらう

地域の人に顔を覚える

地域の人との付き合い方が分かる

地域人と協力する大切さを知る

親戚との付き合いを把握する

イエの仕事把握する

下の世代を指導していく

地域のしきたり・伝統を伝えていく

○△△△*

○△△△*

-△◎**

*◎△**

-*◎△*

*◎△**

-*◎△

-△△○

《地域別》

都市近郊A

離島B

中山間C

内容

時期

1

2

3

4

5

内容

時期

1

2

3

4

5

地域の人に顔を覚えてもらう

地域の人に顔を覚える

地域の人との付き合い方が分かる

地域人と協力する大切さを知る

親戚との付き合いを把握する

イエの仕事把握する

下の世代を指導していく

地域のしきたり・伝統を伝えていく

◎○◎**

○○◎△△

-△●△△

-*◎△*

**◎△*

◎◎△△*

-◎◎◎

-△◎◎

◎△△-

◎△△*

-△△*

-*◎△*

-*◎△*

△△△*

-*◎△

-△◎◎

○◎△**

◎△△*

*◎△**

*◎△**

△△△*

△△△*

-△△◎

-△△◎

50代

60代

70代～

内容

時期

1

2

3

4

5

内容

時期

1

2

3

4

5

地域の人に顔を覚えてもらう

地域の人に顔を覚える

地域の人との付き合い方が分かる

地域人と協力する大切さを知る

親戚との付き合いを把握する

イエの仕事把握する

下の世代を指導していく

地域のしきたり・伝統を伝えていく

◎○△-

◎△△*

-△◎**

△△

-△△△

△△△*

-*◎△

-△△◎

◎△△*

◎△△*

-△△*

-*◎△*

-△△*

△△△*

-△△△

-△△◎

△△△*

△△△*

△△△*

△△△*

△△△*

△△△*

△△△*

△△△*

が養われる影響であると考えられ、地域社会のしくみの中に、個人とイエとが内包されていると捉えられる。中山間 C は、会の[仕事]を請け負う頃には協調性を実感し、意識も高い。幅広い活動参加により多くの経験を重ねる中で、互いに地域社会を支え合う関係が作られてきたと考えられる。

このように、地域社会のしくみを基盤として、加齢や[就職]・[結婚]という人生の節目に応じて、また地域社会の[仕事]・[役職]を担うといった経験から、地域社会における協調性を学び、地域社会の一員としての役割認識を持つことが明らかとなった。

ii) 地域社会の一員として次世代に期待すること

第二に、地域社会の一員として、各世代の各時期においてどの程度のことが必要か、{期待すること}とその{時期}に対する考えについて各人の経験則を背景として捉え、地域社会のしくみの意義と今後の地域社会形成の方向性を探る。

全体像として、[結婚]前までに顔を覚え、また覚えてもらい、[結婚]後、人とのつきあい・協力や親戚つきあい・イエの仕事把握する。[子の就職]後は次世代を指導し伝統を伝え、[隠居]後は伝統を伝えていくという一連の流れが把握できる(図 20)。この傾向は男女共に同様にみられるが、男性はイエの仕事把握することに対して[就職]前から必要であるとの考えがある。立場別では、特に親子世帯間の違いはあまりみられない。また年代別でも、30～50 代は地域の人の顔を把握することに対して、[就職]前から[結婚]後までの期間を挙げているが、60 代以降は[就職]前にやや偏っており、若年層の方が地域と関わりを持つことを急いでいない傾向がみられる程度である。[結婚]後から[子の就職]までの期間にあたる 30～50 代については、地域社会・イエの担い手である当事者であり、実際それらに対する期待を自身が挙げていることは、イエ・地域社会における役割の必要性を実感していると捉えられる。地域別にみると、都市近郊 A は、地域のしきたり・伝統を伝えていくことには大きな関心がみられるものの、[就職]前までは地域社会との関わりに対する期待が低くなっている。このことは若世代の担い手としての認識を遅らせる要因の一つと考えられる。離島 B は総じて期待が低い。特に、地域への協力、イエの仕事の把握、後輩指導に対する期待はあまりみられず、時期については、[就職]前、[結婚]後、[隠居]後の 3 つにのみ集中している。これは、地域社会が若い世代を育てていくといったしくみがあり、いわば日常生活が地域社会に溶け込んでいるため、特に意識せずとも必然的に役割を果たしていることによると考えられる。中山間 C は、[就職]をきっかけとして地域とのつきあいを求めており、後輩指導に対しても早い時期から関心を持っている。役割継承の特徴からいえば、親子世帯間で役割を分担し、それぞれに任せるものの、地域社会との関わりは長く大切にすべきだという認識を持っていてと捉えられる。

以上のことから、個々人が地域社会における役割内容とそれを果たすべき時期を認知しており、個人の価値観とイエ・地域社会のしくみは密接に関係し、社会形成において各々切り離せないものとなっていることが求められた。地域社会のしくみを通じて、若い世代が地域社会運営の担い手として育成され、各人が社会への関心を高めていくことは、地域社会の維持・継承を促す人材かつ土台を作り出していると捉えられる。

6. まとめ

以下に、イエ・地域社会の維持・継承の内容と方法をまとめる。

- 1) 個人の地域社会への関わり方は性別に規定された男女の役割型が示され、また経験則から活動内容が 50 代までは役割遂行型、それ以降は余暇充実型という年代に規定された参加形態が明らかとなり、地域社会運営の担い手として役割を果たす時期は 50・60 代であることが求められた。従来の男性主導の地域運営に加え、女性の社会参画がみられたことは、新たな地域社会運営の方法として捉えられる。
- 2) イエ内部の役割分担の方法は、主にイエ内の立場に規定されることが求められた。従来のイエを単位とした社会参画から、新たに親子・夫婦間の役割分担、協力、支援による世帯単位の参画が捉えられ、個人・世帯の主体性が確保されていることが明らかとなった。これは個人・世帯の幅広い社会参加を促し、地域社会における活動の活性化が図られると考えられる。
- 3) イエ内部の役割継承の方法に、①親主導の連続的継承、②子世帯中心の一括継承、③親子分担による段階別の分割継承の 3 タイプが事例地より求められ、イエ内の役割が立場に応じて継承され、かつ地域固有の継承方法が明らかとなった。従来型の①連続的継承によるイエ単位の社会参画に加えて、②一括継承では世帯中心の社会参画及び課題として個人の主体性の制限が捉えられ、③分割継承において世帯単位の社会参画と個人・世帯の主体性が確保された新たな継承方法が求められた。イエ内の世帯継承により地域社会におけるイエの代表を育成することは、地域社会の継承にも重要である。
- 4) 地域社会のしくみを通じて、地域社会における協調性や役割を学んでいくことが明らかとなった。若い世代から社会参加ができ、各人が立場に相応した社会における役割内容を認知し果たしていけるしくみは、イエ・地域社会の維持・継承の基盤となる。
- 5) 地域社会の運営方法において、個人が育成され次世代に役割が継承されていくしくみ、並びにイエ内部の役割分担及び役割継承の方法において、個人・世帯の主体性が確保され、かつ地域社会におけるイエとしての役割が継承されていく新たなしくみ、これら地域社会とイエ双方のしくみが連動することは、今後の地域社会の維持・継承において有用である。

注 1) 「イエ」：ここで捉えているイエとは、農村社会学に準じ「鈴木榮太郎著作集 I」で記述されている「…家における社会生活の原理は、…中略…家族内における家長を中心とするそれぞれの位座の整序にその骨格を示している。そして個々の位座間に精密な規範が存している。」に基づく。

【参考文献】

- 1) 鈴木榮太郎:「鈴木榮太郎著作集 I」, 未来社, 1968.4
- 2) 福武直: 日本村落の社会構造, 東京大学出版会, 1969
- 3) 余田博通, 松原治郎: 農村社会学, 川島書店, 1969
- 4) 蓮見音彦編: 社会学講座第 4 巻農村社会学, 東京大学出版会 1973
- 5) 有賀喜左衛門: 村の生活組織, 未来社, 1976
- 6) 浜田陽太郎, 宮崎礼子, 矢口光子: 対談・農村生活を考える, 全国新聞情報農業協同組合連合会, 1979
- 7) 蓮見音彦, 奥田道大編: 地域社会論 住民生活と地域組織, 有斐閣, 1980
- 8) 福武直: 日本の農村(第二版), 東京大学出版会, 1981
- 9) 安達生恒: 現代農民の生活と行動, 日本経済評論社, 1981
- 10) 日本農村生活研究会東北支部編: 暮らしと農村生活の新展開, 明文書房, 1981
- 11) 長谷川昭彦: 農村の家族と地域社会 その論理と課題, 御茶の水書房, 1986
- 12) 塚本哲人編著: 現代農村における「いえ」と「むら」, 未来社, 1990
- 13) 高橋明善: 農村社会の変貌と農民意識, 東京大学出版会, 1992
- 14) 山崎義人, 後藤春彦, 村上佳代: 島民生活の体系的把握による子宝島の生活環境に関する考察 ～離島の人口定着と地域維持に関する研究, 日本建築学会計画系論文報告集 No.500, p.153, 1997.10
- 15) 村上佳代, 後藤春彦, 角田理江: 離島の生活環境計画と振興方策のあり方に関する研究 ～奄美群島振興特別措置法と瀬戸内町集落の人口動態・生活圏域に着目して, 日本建築学会計画系論文報告集 No.513, p.175, 1998.11

(1999年11月10日原稿受理, 2000年4月26日採用決定)